

2019年度 加賀看護学校学校評価報告

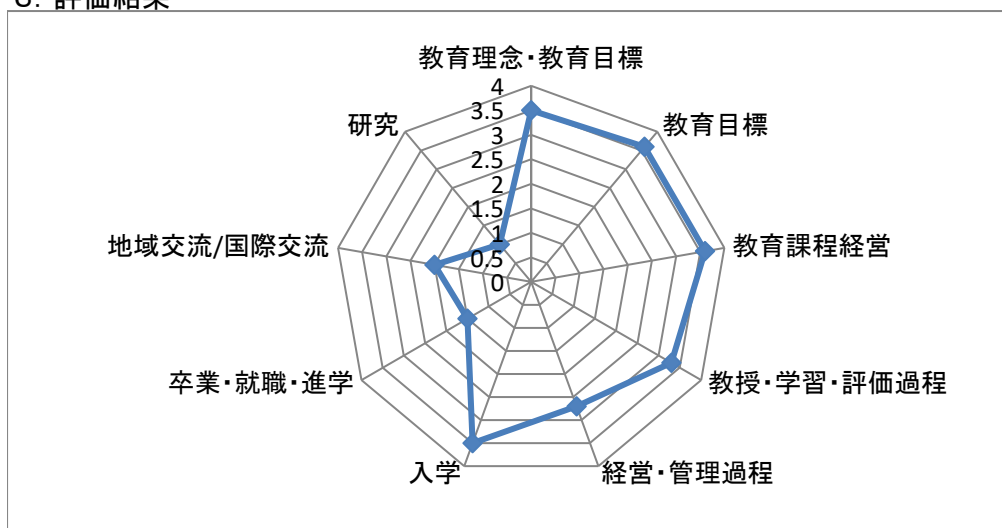
1. 評価内容

I 教育理念・教育目的	5項目
II 教育目標	5項目
III 教育課程経営	15項目
IV 教授・学習・評価過程	12項目
V 経営・管理過程	14項目
VI 入学	2項目
VII 卒業・就職・進学	4項目
VIII 地域交流/国際交流	7項目
IX 研究	3項目
計	67項目

2. 評価の基準

4 当てはまる 3 やや当てはまる 2 やや当てはまらない 1 当てはまらない

3. 評価結果



4. カテゴリーごとの評価の概要

カテゴリー	評価平均点	評価の概要
I 教育理念・教育目的	3.5	<p>学校の教育理念・目的・目標は、学生便覧、シラバス、実習要項、学校案内に記載している。学生には入学時のガイダンスで周知しているが、学生への浸透は低い状況にある。学生・教員とも日々意識できるよう、校内掲示によって目に触れやすい環境を作ったり、入学時だけでなく実習前やHRなど折に触れ理念・目標を提示するなど浸透を図っていく。</p> <p>来年度はカリキュラム改正に向け、教育理念・目的・目標が、社会のニーズや変化に対応しているか、学校の特色がみえるかという視点で見直しを行う。</p>
II 教育目標	3.6	<p>教育目標は、教育理念・目的と一貫性があり、教育内容を網羅したものとなっている。</p> <p>卒業後の継続教育の考え方を明確に示していないため、見直しを行う。</p>
III 教育課程経営	3.6	<p>教育理念・目的・目標に沿った教育活動を展開している。シラバスを活用し、講義内容の過不足がないよう講義調整している。シラバスの変更時に学生への差し替えがされていない現状があり、改善を要する。また、講義内容の重なりが散在し、見直しが必要である。</p> <p>単位修得に関しては、学生便覧に明示し入学時ガイダンスで周知している。また、段階的に学習できるよう科目進度を考慮して教育計画を立案している。試験は学習して臨めるよう日時設定しているが十分とは言えない。</p> <p>教育課程評価の体系においては、学生による授業評価を実施しておらず課題となっている。授業評価の実施要領に結果活用の倫理規定を追加し、授業評価を実施していく。</p>

カテゴリー	評価平均点	評価の概要
		<p>教員の科目担当は経験を加味し配分している。看護教員養講習会受講のため実働教員が1名減の影響もあり、個々の教員への負担が多く授業準備に十分な時間がとれていない。また、学会や研修会への参加は保証しているが、相互研鑽の体制がとれていない。人員確保や相互研鑽の体制づくりが課題である。</p> <p>臨地実習については、定期的の実習指導者会議を開催し、実習施設との十分な調整ができている。また指導力向上に向けた学習会も行っている。臨地実習中の事故は積極的にヒヤリハットレポートをまとめている。事例は安全委員会が分析し、学生への周知もできており、安全教育、安全対策ができている。</p>
IV 教授・学習・評価	3.3	<p>教育内容は、教育理念・目的・目標と一貫性をもち、科目目標・単元目標、科目間の関連性、評価方法はシラバスに明示している。シラバスは、学生の学習への動機づけとなっている。</p> <p>授業の展開では、シラバスに沿い学生の学習が進化するよう授業内容に応じて授業方法を選択している。また、教員間で学生の学習状況を共有し学習を支援している。</p> <p>目標達成の評価とフィードバックは各教員に委ねているため、学生による授業評価も含め計画的に行い授業改善につなげる必要がある。</p>
V 経営・管理過程	2.7	<p>学校長及び事務局長が病院との兼務であるが、職員会議等で管理者の考えを確認しながら、連携して学校運営にあたっている。組織体制は、学則等に明示されており、職務分掌に沿って各々の役割を果たすよう努力している。</p> <p>財政基盤は授業料のほか大部分は市の一般財源となっている。教職員の意見も反映しながら支出計画及びその根拠を示し予算確保している。</p> <p>学習の質向上を図るための設備や教材の整備は計画的に行っている。</p> <p>学生生活の支援として、経済面では就学金制度の説明会と手続き等の支援を行っている。日々の学習相談やその他の悩みについてはクラス担当が対応している。精神的な問題を抱える学生が増えてきており、タイムリーにカウンセリングを受けられる体制づくりが必要である。</p> <p>学校の将来構想が未決定の状態である。</p> <p>これまで部分的な自己点検・自己評価は実施してきたが、今年度は全体的な自己点検・自己評価に取り組んだ。今後は、システムとして運用し、自己点検・自己評価結果に基づく改善を行っていく。</p>
VI 入学	3.5	<p>学生募集に関しては、高校訪問、業者による進路説明会への参加、オープンスクールを開催し、募集活動に努めている。入学者選抜は、規定に基づき実施し、適切に検討し決定している。</p>
VII 卒業・就職・進学	1.5	<p>卒業時の到達度は、看護技術経験状況と看護の統合と実践ⅣにおけるOSCEで把握している。しかし分析に至っていないため、今後は卒業時の到達状況を多面的に把握し分析をすすめていく。</p> <p>近隣の施設に就職した卒業生の評価は、情報収集しているが断片的である。卒業生の活動状況の調査及び分析をシステム化して実施していくことが課題である。</p>
VIII 地域社会・国際交流	2.0	<p>地域の要請に応じて、教科外活動として学生が参加できるよう調整したり、ボランティア活動としての参加を推奨し地域貢献に努めている。学校祭では地域の方との交流の場となっている。しかし、地域社会のニーズや特徴の把握、学校からの情報発信にはさらなる努力が必要である。</p> <p>国際的視野を広げるための環境は整っているとはいえない。海外で活躍する卒業生の紹介やアリス学園との交流など検討したい。</p>
IX 研究	1.0	<p>研究ができる環境・時間は各自で確保する現状であり、研究活動を保障する体制は整っていない。看護教員養成講習会への参加に伴い、実働教員1名減の中研究に取り組むことが難しい状況がある。</p>